

明治150年記念講演の開催（五百旗頭東京大学教授）

平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から満150年の年に当たります。明治以降、近代国民国家への第一歩を踏み出した日本は、明治期において多岐にわたる近代化への取組を行い、国の基本的な形を築き上げていきました。

この節目に際し、東京大学大学院法学政治学研究科の五百旗頭薫教授がヨルダンを訪問され、アラブ思想フォーラム（9月26日）とヨルダン大学戦略研究所（9月27日）にて、「日本の近代化とその背景」というテーマで、明治150年記念講演を行いました。講演にはシンクタンクや大学等の学術関係者、メディア関係者、学生らが出席し、日本の近代化の歴史がどのようにして現代の日本を形作ったかについての話に熱心に耳を傾けていました。また、講演後の質疑応答では、日本が長きにわたる伝統文化を残しつつ世界有数の経済大国になれた要因は何か、日本の近代化の歴史からヨルダンやアラブ社会が学べることや活かせることは何か、近代化以降に確立された日本の立ち位置を踏まえて現在の東アジア情勢や国際情勢にどう対峙するのか、といった点につき、活発な議論がなされました。



アラブ思想フォーラムでの講演（9月26日）



ヨルダン大学戦略研究所での講演（9月27日）